

会議名称	令和3年度第1回門真市文化芸術推進審議会
開催日時	令和4年3月29日(火)午後5時15分から午後6時25分まで
開催場所	門真市役所 本館2階 大会議室
出席者	(委員) 清澤委員、朝倉委員、本田委員、中出委員、わかぎ委員、原委員 【出席人数6人/全6人中】 (事務局) 水野市民文化部長、山市民文化部次長 隈元生涯学習課長、森井課長補佐 空本係員、西原係員、別府館長
議題(内容)	・会長及び副会長の決定及び本会議の公開について ・門真市文化芸術推進基本計画の取組状況について ・関西フィルハーモニー管弦楽団との連携について
傍聴者数	0人
担当部署	(担当課名) 市民文化部 生涯学習課 (電話) 06-6902-7139 (直通)

【事務局】

お待たせいたしました。定刻を過ぎましたので、令和3年度第1回門真市文化芸術推進審議会を開催いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

まず初めに、今年度からの新しい審議会委員の委嘱状につきまして、本来は門真市長より交付すべきところ、皆様のお手元に置かせていただいております。あらかじめご了承ください。

開催に先立ちまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。

表紙 門真市文化芸術推進審議会 次第

資料1 門真市文化芸術推進審議会委員名簿

資料2 門真市文化芸術推進審議会規則

資料3 文化芸術振興審議会の会議公開要領

資料4 文化芸術推進基本計画 進捗状況

資料5 指定管理者指定事業実施状況

資料6 指定管理者自主事業等実施状況

資料7 関西フィルハーモニー管弦楽団との連携

資料8 配席図

以上でございます。資料に不足はございませんか。

つづきまして、委員の皆様を名簿順にご紹介いたします。資料1「門真市文化芸術推進審議会委員

名簿」をご覧ください。

大阪国際学園芸術文化教育センター長の朝倉洋委員でございます。願得寺ご住職、四条畷学園理事・評議員並びに武庫川女子大学建築学科非常勤講師の清澤悟委員でございます。チェンバリスト・ピアニスト及び門真市音楽協会音楽監督の中出悦子委員でございます。大阪電気通信大学総合情報学部ゲーム・メディア学科及び同大学院総合情報学研究科教授の原久子委員でございます。大阪市立大学大学院都市経営研究科客員研究員の本田洋一委員でございます。作家で演出家でもあられる劇団リリパットアーミーⅡ（セカンド）座長のかき 忍委員でございます。

また、こちらにおります我々は、当審議会事務局の市民文化部及び生涯学習課職員と、パイロットプロジェクト事務局であります特定非営利活動法人トイボックス職員です。それでは、開会にあたりまして、市民文化部長の水野がご挨拶申し上げます。

【水野部長】

只今ご紹介に預かりました市民文化部長の水野でございます。いつも皆様にはお世話になり誠にありがとうございます。

門真市文化芸術推進審議会の開催にあたりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様方におかれましては、公私ご多忙の中、会議にご出席を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、平素は本市行政各般に渡り、ご理解とご協力を賜り、重ねてお礼申し上げます。

さて、本市におきましては、本審議会のお力添えにより、昨年3月に、門真市文化芸術推進基本計画、お手元にごございます計画ですが、こちらを策定致しました。本計画は、文化芸術に限られた施設や限られた人々のものとしてではなく、誰もが身近に感じることができる文化芸術のあふれるまちを実現するため、「協働・共創」をキーコンセプトといたしまして、今年度から計画の実践に取り組んでおります。

本日は委員の皆様、本市における文化芸術に関する施策の推進状況などについて、率直なご意見を賜り、今後活かしてまいりたいと考えておりますので、よろしくご意見申し上げます。簡単でございますが、開催にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【事務局】

それでは、案件1、会長及び副会長の決定及び本会議の公開について説明いたします。まず、資料2「門真市文化芸術推進審議会規則」をご覧ください。第3条において「審議会は、会長が招集し、会長がその議長となる」としていることから、議長となる会長が決定するまで、引き続き事務局が進行させていただきます。

なお、本会議は、次の資料3「門真市文化芸術推進審議会の会議公開要領」におきまして、「会議は、公開するものとする。」というふうに規定していることから公開していることをご了承ください。なお、門真市情報公開条例第6条の各号に掲げる不開示情報に該当する情報を審議する場合には、議長が会議に諮り、会議を公開しないことができることとなっておりますことを申し添えます。

次に、会長及び副会長の決定について、もう一度、資料2をご覧ください。

資料の第2条ですが、「審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によって定める。」との規定に基づきまして、委員の互選によって定めることとしたいと思います。どなたかご意見をいただけますでしょうか。

【本田委員】

前期の計画策定時に会長副会長として取りまとめにご尽力いただきました清澤委員、朝倉委員に引き続き会長・副会長として選任いただけたらと存じますけれども、いかがでございますでしょうか。

【事務局】

ありがとうございます。

本田委員より、前回に引き続き会長を清澤委員に、副会長を朝倉委員にとのご意見を頂きました。他にご意見はございますでしょうか。もしよろしければ本件について本田委員の案で賛成であれば拍手をお願いいたします。

【拍手】

ありがとうございます。それでは、賛成多数により、会長を清澤委員、副会長を朝倉委員に決定いたします。

それでは、清澤委員、朝倉委員はそれぞれ会長席、副会長席に移動をお願いいたします。

【会長・副会長 着席】

ありがとうございます。それでは発言をしていただく前に皆様のお手元にあるマイクのボタンを押してからお話いただくようお願いいたします。それでは、清澤委員、朝倉委員それぞれ移動いたしましたので、この後の進行を清澤会長をお願いしたいと思います。

会長、よろしくお願いいたします。

【清澤会長】

承知いたしました。今、本田委員のほうからご推薦いただきまして、前回務めさせていただきましたこともあったのかと思いますが、同じ顔ぶれで会長・副会長ということで務めさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは時間も限られておりますので、議事も進めてまいりたいと思いますので次の案件について、事務局のほうよろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、案件2の門真市文化芸術推進基本計画の取組状況についてご説明させていただきます。

今回、新たにご就任いただいた委員もおられますので、計画策定までの経緯を簡単にご説明させていただきます。門真市では平成19年4月に文化芸術振興条例を制定し、22年1月には条例の趣旨を反映した門真市文化芸術振興基本方針を策定しました。この文化芸術振興基本方針を策定して10年が経過し、これまでの取り組みを振り返りながら、ルミエールホールも大規模改修を行うタイミングで、条例を門真市文化芸術推進条例と改めました。平成30年度から門真市文化芸術推進基本計画の策定に向けて、文化芸術推進基本計画策定準備検討委員会や、庁内検討委員会などを開催し、計画を策定しました。本計画は、今後10年間を見据えた計画となっております。「門真のまちをアートで染めよう」との合言葉を元に、多くの市民の皆さんを巻き込み、アイデアを募り実践していくための

基盤である「プラットフォームづくり」をめざしています。

今会議の審議会の目的としましては、委員の皆さまに、文化芸術推進基本計画の取組状況について評価していただき、改善に向けてご意見を頂きたいと思っております。それでは、資料4をご覧ください。また説明と合わせまして、画像このディスプレイに投影させていただきますので合わせてご覧ください。

まず初めに、パイロットプロジェクトの取組についてご報告させていただきます。本基本計画を実践するため、市民や市内企業と市で、できることから実施し、本市の文化振興と市民協働のためのプラットフォームを形成する目的で試験的な企画事業を行うパイロットプロジェクトの活動について、文化芸術に限られた施設だけではなく身近にふれるきっかけづくりのために、公共施設のほかに、地域や商業施設の空きスペースを活用した展示など、市内各所で常設に限らない「まちかど・まちなかギャラリー」を開催することとして取り掛かりました。月に1回の検討会議を行い、その中で、イベント名を「KADOMA ART FES」と策定し、今年度は12月1日から5日までの5日間開催いたしました。

まず、古川橋地区では中塚荘、月出郵便局、商業施設の壁面で、作品展示や壁面アート、ワークショップの他、キッチンカーやマルシェ、まちかどまちなかコンサートの開催を行いました。参加者数はこの地区では529名でした。

次に西三荘地区におきまして、エル西三荘高架下にて作品展示やワークショップの他、まちかど・まちなかコンサートを開催し、参加者数は363名でした。

次に3か所目、大和田地区では、大和田駅南商店街や空き店舗、商業施設のカフェや駐車場で、作品展示やハンドメイドの作品の販売の他、キッチンカーやマルシェ、コンサートを開催いたしました。参加者数は2,023名です。

これらの計画の実施に向け、準備を進めていく中で、キッチンカーやコンサートを集客を目的として実施したので、計画策定時には実施2・3年目を想定していましたが、その段階まで達することができました。

次年度に向けては、現在の検討会議に参加していただいているメンバーのうちから次年度も引き続き参画していただけるメンバーで、実行委員会を設定するために動き出しているところでござ

います。

次に、本市の文化施設であります、ルミエールホールの指定管理者による指定事業の実施状況を説明いたします。資料5をご覧ください。

まず、るみえーる亭でございます。今年度は6月25日、10月22日、2月18日に開催しました。3公演とも新型コロナウイルス感染症対策のため定員を35名に絞り込み、来場者数は1回目、2回目が33名、3回目が35名です。

次に、吹奏楽フェスティバルにつきまして、例年はルミエールホール大ホールにて開催していますが、今年度は感染症対策のため7月18日に収録を行い、YouTubeにて期間限定で配信を実施しました。出演者は6団体で視聴回数は1,427回でした。

門真市文化祭につきまして、まず、ダンスフェスティバルが10月31日大ホールで開催しました。来場者数は1,093名、出演団体は52団体でした。次に、門真市文化祭の市民創作展について、10月31日、11月1日、11月3日に実施しました。来場者数は3日間で1,246名、出展数は211点となりました。

次に、門真市文化祭の市民芸能祭は11月3日10時に開演しました。来場者数は449名で出演団体数は29団体でした。

最後に、門真市文化祭の市民音楽祭につきまして、11月7日に開演しました。来場者数は347名、出演団体数は10団体でした。

続きまして、まちかど・まちなかコンサートに関しましては、今年度は、KADOMA ART FES と共同で実施いたしました。エル西三荘高架下でLien Saxophone Quartetによる、サクソ演奏を実施いたしました。来場者数は95名でした。次、中塚荘ではシンガーソングライターの大眉りさんが披露されまして、来場者数は40名でした。

なお、コーラスフェスティバルに関しましては、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となりました。

続きまして、指定管理者の自主事業などについてご説明いたします。資料6をご覧ください。まず、ロビーコンサートにつきまして、今年度は10回開催し、参加者数は延べ540名でした。

次に、ロビーでのロビー展示に関しまして、今年度は七夕祭りやクリスマスツリーなどの展示を6回実施しました。

続きまして、シルバー夏フェスを、8月13日に開催しました。映画「門真市ゾンビ人材センター」の上映やファッションショー、琉球エイサー踊りなどを実施しまして、参加者数は延べ600名でした。

次に、「スペシャルコンサート」につきまして、10月14日の午後1時と午後4時30分の2回開催しまして、来場者数は2公演で1,300名でした。

つづきまして、アウトリーチコンサートに関しまして、小学校8校に訪れて演奏していただきまして、合計495名の児童を対象に実施いたしました。

次に、門真絵画100選につきまして、新型コロナウイルス感染症対策のために今年度はWeb上で12月1日から1月10日までの期間開催しまして、その閲覧数は1,402回でした。

次に、劇団壺劇屋イマーシブシアター「クリスマスアンダー・グラウンド」についてですが、12月23日から12月25日の3日間にわたり、合計9回公演いたしました。入場者数は合計200名でした。

次に、映画「ひとくず」無料上映会を2月20日に2回上映しました。入場者数は合計900名でした。

続いて、みんなでつくる門真の第九2022を3月6日に開催いたしました。来場者数は約600名で、参加者数は104名となりました。

最後に、劇団壺劇屋マイム公演「不思議の国のアリス」につきまして、3月24日に開催しました。来場者数は延べ210名でした。

以上が門真市文化芸術推進基本計画の取組状況についての報告となります。

【清澤会長】

ありがとうございました。コロナ禍ということで中止になったものもあつたり、あるいはリモートで開催されたもの、いろいろ工夫されながら、通常の形とは少し変則になっておりますが、各分野の活動ということで、ご紹介をいただきました。ざっとご報告いただきましたが、なかなかご理解いた

だきにくいとは思いますが、まず、今期の活動状況についてご意見あれば聞かしていただければと思います。今回、原先生は初めてご参加をいただきまして、以前アートサロン等を通して門真に関心持っていたというので、その時お会いさせていただいたのをきっかけとしまして、今回お引き受けしていただいたのだと思っております。また本田先生は以前から参画していただいているのでご存じだと思いますし、わかぎさんもよくご活躍いただいておりますのでご理解はあるだろうと思います。

原先生についてはもう全くの白紙というところで、新たなご意見でも結構ですので、ご意見賜ればと思っております。

それではよろしく申し上げます。では、並び順ですので、原先生から一言いただけたらと思っております

【原委員】

よろしく申し上げます。ART FES に関して、事前にホームページで記録拝見して参りました。ちょっと手厳しい言い方をしてしまうと、中学校高校の文化祭のように見えてしまいました。さきほどキッチンカーの話も出てきたのですが、例えば地域の食の文化のこと、食育などテーマ性を持って実施されていたのが気になりました。大阪にもなにわの野菜もあり、北河内の地域にもそういった食文化を育てていく素地はあると思っておりますので、具体的なテーマを持って開催された方が良いかと思われました。

【清澤会長】

また何か改めてございましたらお話しいただければと思います。

これは事務局のほう、何か答えございますかね。そうゆうふうなところまで考えてってことではなかったのではと思いますが、どうですか。

【事務局】

大和田地区のマルシェを開催しておりまして、そこでは大和田地区の商店街の方が参画しており、門真市内の商店街の店の商品を販売しておりました。

【清澤会長】

本田先生どうでしょうか。

【本田委員】

会長、おっしゃいましたようにコロナで厳しい中で各分野で頑張られているなというふうな印象を持ちました。私自身は趣味的には音楽の分野ですので、門真の第九には参加させていただいて、今年もぜひとは思っていたのですが、ちょっと厳しい状況なので、練習参加断念させていただいて、演奏はとても素晴らしかったです。トップクラスじゃないかと。全国的に見てもですね、思いました。ぜひ、これだけの成果を門真があげられているというのを、もっともっと発信できればいいなと思いました。文化芸術推進基本計画という計画が出来上がってきましたので、これの計画的な推進を図っていくためには、ぜひいろんな分野での各取り組み情報を活発にしていって、財源とかエネルギーをより幅広い視野で蓄えていくってのが大事なんじゃないかと思います。例えば、全国創造都市ネットワークとかいうものもありますから、場合によっては市長さんがそういう場で、こういう門真市の基本計画を作ったと、文化創造のまちづくりに向けて頑張っているんだということを発信されて、文化庁とか地方創生の取り組みとかですね、国レベルでもサポートの仕組みができてきてますので、それをどんどん取り組んでいくことで、門真っていうのが大阪の中ですごく最近存在感を高めてるよねと。オーケストラの町とかですね、美術の分野とか、演劇の分野とか頑張っている、映画の分野でも頑張っている、そういう発信力というのは特にこれからの計画の推進の上ではですね大事なんじゃないかと思いますので、市にはお願いしたいと思います。関連しまして私自身もたまたまオーケストラなんかのこの取り組みを知ってましたので情報は得られたのですが、関西フィルの取り組みとかですね、市の取り組みがあります時はこの審議会のメンバーにもですね情報があるので見に来たらどうかという形でご案内いただければと思いますのでよろしくお願いたします。

【清澤会長】

ありがとうございます。私ども2人（清澤会長及び朝倉副会長）は、後ほどということにさせていただきます。中出先生、よろしくお願いいたします。

【中出委員】

今回もこのメンバーに寄せていただきましてありがとうございます。拝見してましたら、様々な取り組みをされてまして、多岐にわたってだんだんと門真もいろいろなバラエティーに富んだ活動

をされることが増えてってよかったなって思って見てたんですけども、それが今、例えばこういうふうに報告していただいて、全然知らないものもあつたりとかしますし、こういうことをするって言ったときにそれを計画をして企画をしたときに、それは誰がどのように発起してされたのかなっていう。例えば、ここの市役所のどなたかが団体に話を持ち掛けてなつたとか、そういう何かどういふふうにして、これが選ばれたのか、こちらもちよつと分からなくて。私もここに住んでるんですけど、例えば私が一市民として何かやりたいと思ったときにですね、それが応募してできるものなのか、勝手にそちらのほうで話をすすめて何かしているのかなとかちよつとすごいところが見えない気がしまして。いろいろ取り組みされてることはすばらしいんですけど、何か限定された方でやっているイメージが。なぜかといいますと、うちは門真市音楽協会とって30年余りずっと活動してるんですけど、例えばうちのほうには何も言ってきてくださらないですし、うちもものすごい日本で有名な音楽家の方との繋がりいっぱいあるんですよ。そういう話は1回も振られたことこないですし、市役所の方から。だからもうこっちは勝手に活動してる感じになってるんですけども。そういうのとかね、ちよつと聞いてたらもう少しそのせっかくなんだからその点・点ってやらないで線にして立体的にしてっていうね、もう少し広げていかないと、小さなかたまりで終わってしまつたり、先ほど、原先生がおっしゃられたように広げていかないと、なんか結局その小さな塊で終わってしまつたりで、先ほどちよつと何かその文化祭的な感じがするっておっしゃいましたけど、その何なんでもそうですけどアマチュアで楽しむレベルから、本当にプロの世界までであると思うんですけど。そこにバースと広げていくっていうためにももう少し段階を踏めるような感じとかが、なんていうかその段階を踏めるような方があつたら。それがわかりやすければね、いいんじゃないかなっていう。あの取り組みとしてはいいなと思ひましたし、例えばそのアウトリーチでね小学校にするとかいうのも昔結構音楽協会でやってたんですよ、やらせていただいて。そんな中の一つに願得寺さんの会場を貸していただいたりとか、そういうこともやってたんですけど、最近では例えば数年前ですけど、こちらからどこの小学校にね、個人的にあのコンサート行きますけどって言っていったらそのすごく喜んでくれる学校と、もう最近はその早く帰らせないと親御さんがうるさいからとか、もう先生も何か用事が増えたら嫌だからっていう消極的なところがあつたりしたんですけど。そう言われてしまつたらもう

こっちも押し売りもできないしという感じでそういうのをされてるっていうのはすごくいいんですけど、そういうのを、例えば、どうやって選んでいるかとか、そういうことを他にもやりたい方いらっしゃると思うんですよ。市民の中でもいろんなことで。それをどうやって選んでいるかとか、どうやって応募すればいいか、そういうのもちょっとね、勝手に進められていってる感がちょっとなきにしもあらずなので、もうちょっと透明性があつたらいいかなというふうに思いました。取り組みとしてはたくさんされていていいなと思ったんですけど、これは多分、市役所の方が把握されてるものだけで、それ以外のものもあるんじゃないかなんていうのもあります。そういうところですかね、はい。そういう意味ではいろいろあつて良かったと思います。

【清澤会長】

ありがとうございます。大変大事なことだと思っただけですね。結果を聞かせてもらっておりますけれども。それぞれがどういう組織でどう始まってどうまとまったのか。第九なんかは結構よくつかめているんですけどね。それから劇団関係ですと恒例行事的な形です毎年やっておられるんだろうと思われませんが。その辺、どういうふうにして。全体的に、バラエティーがあるのはいいんですが、後でまたそういうこともお話ししようと思っていたんですが、何か一貫性みたいなもの、門真市の芸術振興策として行ういろんな行事について、ポリシーみたいなものですね、これが必要なと思います。都市によっては、財団が、文化財団が一定の内容を把握しながら開催しているということもあると思うんですが、市の方ももちろんいろいろ考えながらやっておられると思うんですが、もう少し進め方を系統的にとらえていくことが大事だと思いますし、音楽協会事業についての今のお話なんか、わたくしもそういうところまでは認識していなかったんですが、結局市のほうとあまり連繋出来ていないというお話を聞きまして、そんなものかという風を感じたのですけれども、そのあたりこれからの検討材料としてお考えいただきたいと思います。演劇については、わかぎ先生どうでしょうか。

【わかぎ委員】

はい。ありがとうございます。別に演劇というか。大阪府・市の文化芸術なんたら委員もやっていたんですけど、どこもかしこも一緒って言うか、縦割りになつてて。どうしてもどこの世界でも。

で、どこの会議に行っても、いやもっと絵のことを聞いてくださいよ、音楽の事やってくださいよ、芝居をやらしてくださいよって人が集まってきて。で、大学の先生が、いや、これはなんとかせなあきませんな、言うて。で、次の会議で、こないだこんなご意見いただきましたっていう報告。いやもっとはよ進めよみたいな気持ちになるばかりで全然進めへんのがどこの市も府もそうなんですけど。他のテレビ局も委員をやってますけど。こないだ私すごく長いことこれなくてすいません。この間拝見したよりはずっとずっとたくさん活動してはるなと思いましたけど。文化と芸術どこにでもあるんですよ、正直。みんな音楽やってる人もちっちゃい頃からやりたいからやってるし、スポーツもやってるし、それは家の範囲でいくらでもやってるし、それこそ、絵描きたい子は描いてるし、芝居したい子はしているんですけども、それをどうするかっていう話ですよ。沖縄にりっかりりかフェスタというフェスティバルがあるんです。これもでも、個人のやっぱりプロデューサーがすごい力を発揮しないとできないかと思うんですけど、かつて沖縄市できじむな一フェスタってやっていたんですけど、それ、子どものための国際演劇祭なんです。エジンバラ国際演劇祭って皆さんご存知じゃないと思いますけど、あの演劇の世界で有名なイギリスのエジンバラっていう町で町おこしのために始まった演劇祭なんです。演劇に限らず音楽とかアートとか町中を劇場とみなして劇場以外のうちの家の台所使っていいよっておばあちゃんの家でも借りれる、お客さん1人しかおれへん。ただその演劇祭の期間2ヶ月とかは町中がそれで、そのアート・文化だけにするみたいな。そのちっちゃいやつが沖縄にあって、ただ、本土の人ほとんど知らんっていう恐ろしい現状ですけど。沖縄ではそれを文化庁から予算を取って下山さんっていうプロデューサーが仕切っていらっしゃいますね。で、実際日本から私たちも出たことがありますし、そこへ行くと、私達出ているメンバーとかがギャラの代わりにチケットもらって、そのチケットで町の居酒屋とか行ったら、食堂とか行ったらご飯食べるとか、そこで世界中の20ヶ国とか、へたしたら40ヶ国の人たちが来てて、うちの国の状況、演劇の状況とか、音楽の状況とかスポーツの状況とか、シンポジウムとか話すんですよ。で、このさっき皆さんもおっしゃってた広角過ぎて1年中やってるよりも1週間でいいからその門真全部で祭する。とか言うといわゆる文化芸術祭りみたいな。そのもうちょっとかっこいい名前の方がいいと思いますけど、そういう期間を作るとかなり変わると私は思ってるんです。いつもだったら

はやってられないんです。やっぱり生活しながら芝居やって、生活しながら音楽やってるっていう。いや、もう諦めてやってるっていうの、プロになっていく人たちとのその隙間はいつまでも埋まらないと思うんですけど、期間限定で門真だけは文化祭りやってんねんっていうような、そういう期間があるとかなりそこに集中する人たちとか、集中できる人があればかなり変わるような起爆剤になるような気は私はどこの町でもあると思うんですね。だから大阪市でも言ったんですけど、もう広すぎて、大阪の府と市が全然機能しない。ただ今、大阪文化芸術支援プログラムとかという予算が下りるようになって吉本興業が仕切ってるんですけど、吉本興業さんが指定管理に入ったんですけど、ちょっと小劇場とか音楽の方にその吉本以外の人使いまんねんとか言い出して、その話が来るようになりましたけど、その予算は文化庁からでてる、文化庁から取ったっていう話は聞いているんですけど、ちょっとどこからどう予算をとって誰がその本当にプロデューサーとしてやっていくんかっていうのがどこの町でも市でも国でもそこが大問題だと思うんで、門真市の方でそれを考えられた方がいいんじゃないかと私は思います。

【清澤会長】

ありがとうございます。

いろいろご経験されてますので、情報をたくさん持っておられるこうした方々のお話は非常に参考になるのではないかと思います。先程の、企画がどう出来上がってくるのかという点では、パワフルなプロデューサーであったり、そういう方を委員の皆さんは知っておられますから、そういう人との関連を新たに生み出していくといった、そういうことをこれから考えていってもいいんじゃないかと思えます。事業にメリハリをつけて短期間集中できっちりやるといったことも非常に大事なことだと思います。

【朝倉副会長】

皆様のご意見が非常に共感するばかりでですけど、私も繰り返しになるかもしれませんが、その前にちょっと一つ質問。教えてほしいことがありまして、まちかど・まちなかギャラリーとか、月1回検討会議を行い、という風におっしゃられてたんですけど、これメンバーはどういう構成になっているのでしょうか。

【事務局】

メンバーは市の職員も入ってるんですけども、基本的には団体さん、個人さん、企業さんからなっている市民有志の方になっておりまして、企業さんであれば、郵便局の局長さんであったりとか、市内の事業者の社員さんであったりとか、それと市内での文化活動されている個人さんであったりとかっていうところの二、三十名が、いつも決まったメンバーではないんですけども入れ替わり立ち替わり、いろんな方が参加していただいて毎月第二木曜日を月一回集まっておりまして。12月1日から5日のアートフェスに向けていろんな話をしていたと、その中で、月1回では間に合いませんので、運営部門とか、周知の広報部門とか、それぞれ別で集まって会を進めていきました。現在は会議自体が12月に終わりましたので、今後は、第三金曜日に集まるようにということで、新たな組織でやっていこうというふうに考えています。

【朝倉委員】

これは新たに公募というか、されるんでしょうか。それとも既存の何か引き継いでいくんですか。

【事務局】

今のところ公募まで出来てないんですけどそれは今のメンバーが出入り自由というふうになっていきますので、お声掛けして、この分野やったらこの人が参画できないかというところの声かけを想像していますので、どういう広がりかというところはなかなか想像できない部分があります。

【朝倉委員】

そこんところちょっと工夫がいるかもしれないですね。中出委員がおっしゃったみたいに、なんか知らないところで、せっかく市民の方が集まられてやっておられる、市の職員の方も入っておられるいい組織だと思うんですけど、それに何か先ほど透明性という言葉も出たと思うんですけど別に隠しておられるわけでは全くないのはわかってるんですけど、誰でも知って参加できるような周知の仕方というかシステムでやっていただけたらなあというふうに。実はあの中出委員のお話を聞いてですね。質問をさせていただいたわけです。とはいうものですね、この推進基本計画ができるまでの、その過程において市の職員の方がかなり中心になって、あの奮闘されたって僕も素晴らしいと思っております。ただですね、出来てしまってからがですね、指定管理の事業報告等はありませんけどで

すね。市の姿が見えてこないんですね。なんか指定管理業者主導でおまかせみたい。これを作るときから中心になってやってくださいましたので、指定管理者のほうでそうなるかなとは思いますが、市がそのどう思っているのかということがこの会議で見えてくるとね、例えば市民文化祭ありました。こういう点取り組みしましたけども、今後こういうふうにするには、ここを取り組んでいきたいとかですね、そういうお話をここで伺うと僕らも意見が言いやすいというか。それかもしくは質問していただくとか、そういう、ことがやっぱり必要なのかなあというふうに思いました。これ市のほうがどれぐらいそのイニシアチブを取るのかっていうのはすごく難しい、ことだと思っすね。やっぱりこういうものを進めていくには、先ほど個人の強力なプロデューサーという言葉も出ましたけど、やっぱり中心になるかなりパワーのいるものだと思うんですよね。指定管理業者の方だけでなく市がどういうふうに関わっていくかということをもう少し今後、具体的にですね、出して行っていただけたらいいなと思うんですね。とはいうものの、先立つものはお金でして。例えば後で関西フィルとかで話出るかもしれませんが、あの新日本フィルは墨田区と協定してものすごくいろんな行事やってますけども、ほとんどがですね、あの、墨田の財団がやってるわけですね。ということは、あれは公の財団です。やっぱ区がお金を持ってお金を出してやっているわけで、そういうものがあればですね市の方針でどんどんどんこれをやってとかできるんですけど、なかなかちょっと関西フィルとこの話をとったんですけど伺ったらその関西フィルの行事に対する予算は全く組んでないということですので、何ができるのかなというお話を次にしようと思っすね。音楽祭をやるろうと、そのためにはどうしたらいいかっていう、何か文化祭で何団体入って千何百人来ましたっていうんじゃないで、こんな音楽祭やりましようとかですね、どんな音楽祭したいですかとかですね。そういう明確に出された方がいいと思うんですね、はい。中出委員のような人材がたくさんいるわけですから。門真市に。どんどんどん使ってという言葉はあれですけど協力し合っって少し発想をね、今までやってくださったあの団体の方と話をしてではなくて、ちょっと変えていただいたらなと思っすね。すいません長くなりました。

【清澤会長】

ありがとうございます。委員から、副委員長を含めてご意見いただいたと思います。大体言い尽くされているのではないかというふうに思います。まあこれは前から申し上げていることですが市のほうのリーダーシップが大事でしょうし、公民協働というところの名目のもとにですね、どうも民の方に偏りがちだと感じておりまして、前回の基本施策を立ち上げる時に、市の内部でこれからを担っていく市の中堅の人の部署を超えた一種の文化振興検討チームを作ってくださいましたよね。それで、そういうところで議論しながら、その為のパイロットプロジェクトも生まれてきたということは聞いておりますけれども、このように、市としてリードしていただくというか、ある程度主導権を発揮するということが必要であろうということと、主導権を発揮するということはすなわち費用も出していくということだろうと思うんですけど、そういうことも含めて今後の方向としてやってほしいと思います。後でもう少し意見の方も出るかと思いますが、まずは次の議題を進めていただけたらと思います。関西フィルについて、お願いいたします。

【事務局】

案件3「関西フィルハーモニー管弦楽団との連携について」ご説明いたします。資料7をご覧くださいと思います。

令和2年11月16日に関西フィルと市が協定を締結して以来、音楽を身近に感じてもらい、市民の音楽に対する関心や市全体の文化度の向上をめざして参りました。

主な取組内容としまして、まず、5月には楽団の活動を応援する「ホームタウンサポーター」の募集を開始しました。画面にございますチラシを作成いたしまして市民の皆さまに呼びかけてまいりました。現在、2月末時点で260名の登録がございまして。サポーターに登録した特典として、抽選で関西フィル様のリハーサル公開へ招待、関フィルさんの音源をプレゼント、ステッカーのデータの配付というようなことを行いました。

次に、5月18日、6月16日・17日の緊急事態宣言中におきましてはリハーサルの様子をライブ配信させていただきまして、多くの方にご視聴いただきました。また、リハーサル公開につきまして、

9月18日、1月14日に開催し、延べ57名を招待しました。また、明日3月30日にもリハーサル公開の実施を予定しております。

次に、土日を除く11月10日から16日には、協定締結1周年を記念して、関西フィル50周年記念CDより抜粋した曲を、FM HANAKOで15時20分ごろから約5分間放送しました。また、コンサートチケットやCD等のグッズを関西フィル様よりご提供いただきまして、抽選でホームタウンサポーター5名にプレゼントする企画も実施しました。

次に、11月24日から、市役所本庁舎内においても、関西フィル50周年記念CDのシベリウス交響曲第2番、第4楽章の一部をお昼休みの間の約2分間放送しています。当初は試験的に行っていましたが、好評であったため現在も放送をつづけています。

続きまして、12月8日、文化庁の補助金を活用し、フルオーケストラの演奏会「Meet the Orchestra in 門真」を開催しました。満席の約960人の参加者でした。

次に、12月9日に公私立幼稚園協議会を対象にしました。3月20日にホームタウンサポーターを対象に、音楽サロンというものを実施しまして、延べ28名に参加していただきました。なお、3月30日にも開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となりました。

来年度以降に関しましては、音楽サロン及び公開リハーサルを引き続き実施すること、関西フィル様が文化庁のアートキャラバンの補助金を申請をしており、申請が採択されたときには、次年度もルミエールホールでフルオーケストラのコンサートを1月に開催したいと考えております。

そのほか、ルミエールホールの小ホールでアンサンブルコンサートを定期的に行うことができるように検討したり、ふるさと納税の返礼品を出すことを検討しております。

以上で関西フィルハーモニー管弦楽団との連携についての説明を終わります。

【清澤会長】

ありがとうございます。新しい一つの文化振興の材料といいますか、こうして関西フィルとですね積極的に活動を、支援を市の方とされながらこういう活動を展開されてきたということで、これはこれで非常に意味のあることではないんじゃないかと思いますが、この辺りさらにどう、こう、あるいは現状に参加したり、あるいは見てるところでこんな感じだというふうなところでですね、この辺も

しご意見ありましたら、聞かしていただきたらとおもいますけれども。

【朝倉委員】

さっき言ってしまいましたけど、要するに meet the orchestra in 門真、これは文化庁に申請してやったと。それから市内中学校の演奏指導を一企業に申請して、予算をもらったということで、まあ、一見ですね、いいんですけども、やっぱり先ほど申しあげましたように、あの市のほうでやっぱり予算を持たないと。これすごく僕は拝見して涙ぐましい努力をですね市のほうは。門真市民に関西フィルを親しんでもらおうというね、もうできるだけお金をかからないやり方であのものすごく工夫をやってこられたのは感動的ですからあるんですね。市の方がここまでやっておられるという。ただですねやっぱり先立つものがないとその情熱を生かしていくことができない。いうのでこれをここで言ってもしょうがないのかもしれないんだけど、ということと、それからお金を出してないのに口を出すのもあれですけど、関西フィルは一体じゃあ、門真市にどういう貢献をしようと考えているんでしょうかっていうぐらいのですね、問いかけをして、関西フィルにも考えてもらおうと。もっと深いところまでというような働きかけなんかもいるんじゃないかなって、この門真市にオーケストラが来たっていうのも千載一遇のチャンスだと思いますので何とかこれをですね、あの生かしていただきたいなというふうに思います。以上です。

【清澤会長】

はいありがとうございます。練習場所を提供してるわけですね市として。そういう意味で関西フィルに対しては市としての協力はあるわけですね。主にはそういうものなのですか。会場・練習場の提供、あるいは楽器置き場とか。費用は払っているんですか。

【事務局】

いただいています。

【清澤委員】

そういう点も含めて、市としてもこういうことをやりだしているというような、人材的な貢献も含めて、朝倉委員がおっしゃった更なる関西フィルとの連繫策を展開をしていくうえで、予算というのも、審議会の意見ということで検討いただきたいと思います。それと最後に、この年1回だけの委員

会開催というかたちですが、1年間活動されてきたことを最後に総評して、また翌年また1年終わってからというふうになると思うんですけども、その中で今回の審議会での具体的な提言が事務局を通して市の内部でどういうふうにしてとらえられていくのか。そのあたりをきっちりしていただいたほうがいいんじゃないかなと思います。それから、文化政策を進める母体としてどこがリーダーシップとられるかというのちょっと曖昧だろうというふうに見えますし、そのあたりもはっきりさせていく。その中で、審議会の委員各位がそれぞれが相当な知見を持ちださうと思うんですけども、そういうのもまた活かして、取り上げていって、あるいはそういう人の意見を聞きながら、進めていくという、審議会であるということと同時に、文化芸術振興施策推進委員会みたいな形です。そういうふうにとらえていただけることもできないのか、すると審議会も年度途中で次年度の施策基本案検討として開催、年度末には、総括と次年度への提言のための審議会として開催と、最低限2回としてはどうか、ご検討いただきたいと思います。

今回、年1回の形で今年の総括ということになるかと思うんですけども、最後にもう一回りですね。あの意見これはフリートークということで結構かと思うんですけども、聞かしていただいて、最後まとめたという風に思いますけれども。今日一通り意見を聞いていただいた中で原先生どうでしょうか、何かご意見ございますでしょうか。自由な形で結構でございますので。

【原委員】

関西フィル以外にも大阪にはいくつかオーケストラがあります。豊中市には日本センチュリー交響楽団があります。豊中市立文化芸術センターの指定管理者としてセンチュリーは、JTBコミュニケーションズ他と連合でやられています。皆さん、それぞれに他のやり方っていうのもご研究されていると思うんですが、近隣の他市のやり方もご参考にされるといいのかなと思います。関西フィルのホームタウンサポーター制度は非常に素敵だと思っています。例えばここにもう1つプラスして、条例によって公益法人等への寄付の控除の対象になると書いてありますので、クラウドファンディング型のサポートもいいと思います。先ほどおっしゃっていた、リハーサルにサポーターを無料招待する特典があれば、活動への理解を促しやすくなると思います。兵庫県尼崎市のアルカイクホールでは、コロナ前まで、指揮者大植英次さんを招聘し、市内の吹奏楽部の中高生に向けて指導してもら

プログラムがあります。アルカイクホールの舞台を踏む経験を中高生たちが得られるのです。様々な事例ってというのが、この京阪神いろいろとありますので、皆さんもご存知だとは思いますが、参考にしていかれると、関西フィルとの関係もより良いものになっていくのかと思います。

【清澤会長】

ありがとうございます。本田委員どうでしょうか。

【本田委員】

朝倉先生おっしゃったように、オーケストラのある街というのは日本全国探してもあんまりないので、全国に発信していくにはすごく大事な文化資源だと思います。そういう意味ではぜひ活用してですねそのパワーを発揮していくというのが必要かと思います。オーケストラ、パナソニックの吹奏楽団、第九の合唱団、ソリストの先生方もたくさんおられますのでそういう方々のパワーを集めるような、音楽フェスティバル、そこには演劇とかですね総合舞台芸術の視点で、美術、アートも入って加わっていただいてやるっていうのはすごく門真らしい取り組みになると思いますので是非ご検討いただけたらと思います。そのためには財源なんです、財源はやっぱりもう取ってくるしかないわけですね。市の税金でってなかなか難しいところもありますから国のそういう然るべきところに門真を発信していくことがやっぱり大事なんじゃないかなと思います。いろんな形の財源、人材、様々なパワーを集めていってですね発信していくことを進めていけば大きな力になっていくんじゃないかと思います。大阪でも、原先生がおっしゃいましたように、参考的な事例としましては大阪市内にですね、もともと大フィルが提案されて始まった大阪クラシックという事業も今4つのオーケストラとSionが参画する音楽フェスになっていますし、高槻には商店街の事業主さんが実施されたジャズストリート、何万人という人が高槻の街をゴールデンウィークに埋め尽くすイベントになっていますので、やはり、これだけのいい文化の資源、文化資本、持っておられるまちですので、ぜひその発信をやっていただけたらと思います。以上です。

【清澤会長】

ありがとうございます。では、中出委員どうでしょうか。

【中出委員】

さきほど、ちょっとお尋ねしたことと関係があるんけれども、例えばこのアウトリーチコンサートですね、この出演者の人は関フィルのメンバーなのでしょうか。

【事務局】

違います。アウトリーチコンサートはもう9年やってるので、まだ関フィルさんが来る前からやってるものです。

【中出委員】

これはどうやって（出演者を）選んでやっているのですか。

【事務局】

そもそも最初の出会いはロビーコンサートから始まりまして応募してくれた人たちがプロになって、自分たちでいくつか木管であるとか、あと弦楽四重奏であるとかいくつかこう使ってやってきたんですけど、今は基本的には弦楽四重奏をメインとしてまして。その楽器の紹介からですね、いろいろMCの内容からですね、あと今コロナでできないんですけど実際ルミエールで、子ども用のヴァイオリンを2つ買って、それを全員に触らせる。みたいところでパッケージで今やっております。

【中出委員】

じゃあ、それは関フィルさんが教えているとかではないのですね。

【事務局】

関フィルさんも今後やっていきたいのですがギャラがちょっと関フィルさんのメンバーだと高いので、今はアウトリーチで毎回小学校の4年生を対象に音楽室でコンサートやるのは、フリーの音楽家たちのグループで、次に中学になったら、関フィルのコンサートを全校生で聞けるものを今、中学だと6校なので、年に2校ずつやっていけばちょうど1年から3年の間に必ず関フィルのコンサートをルミエールで聴けるというのを財源を一緒に関フィルと市とトイボックスでどうやって集めるかというのを今、作戦会議をしています。

【中出委員】

昔、小学校もやっぱり、門真で育ちましたのでね、昔、劇団さんが来てくださったり、コンサー

トを来てくださって見せてもらったりしたり、あれは当然学校の予算でやってもらっていたんですよ。ああいうのは今はないんですかね、そんなに。

【事務局】

学校さんが独自に呼んで、学校公演っていうのはやられていると思うんですけど、アウトリーチに関しては完全に指定管理者の予算でこちらの事業として、指定管理者の事業としてやっているものですから、学校公演とは別物でやっています。

【中出委員】

分かりました。やっぱり最終的にはやっぱりお金の問題でしょうって結構大きいなど。昔ね門真市に財団がありましたんで、朝倉先生が司会されているコンサート、良い方こられてね、素晴らしいプロの方が、そういうのもありましたし、うちの音楽協会もついでに何かコンサートをさせていただいたりとかもあったと思うんですけど、やっぱりちょっとね、そういうのがあったらいいなと、あと最近、結構いろんなところである、ジュニアオーケストラだとか、キッズオーケストラだとかね、この頃いろんなオーケストラでそういうのがあって、有名な指揮者の方が指導して下さるとか、そういうので子どもさんが集まってきて、やっぱり一生懸命やっている子たくさんいるので、別に門真の子じゃなくてもね、せっかくないいホールがあって、オーケストラも来たんだから、例えば指揮者の藤岡さんとかがね、そういうことをやってもらってという、そういう風にしたら、1人もまあ門真の子来るかどうかわからないけど、上手な子が来て、それをまたロビーコンサートでやるってなると、やっぱり予算の問題はもちろんあると思うんですけど、コンサート自体は子どもさんがやっているというのでそんなにまあ、ロビーコンサートで無料でできたりもするかなと。今考えて、未来のことを考えたら、子どもさんのこともすごく考えないと。子どもさんにやってもらったり、まあ私は今たまたま音楽のことばかり言ってますけれどね、他に演劇もそうですし、絵画とかもそうなんですけれども、子どもさんに対していろいろ発信しないと、先が続きにくいんじゃないかなと。だから学校公演とかで、無理やり聞かすっていうっていうのは何ですけど、見てみないと、聞いてみないと興味持たない場合もあります。1回も見たことない、聞いたことないでは、好きかどうかはわからないと。っていう感じもあるので、やっぱり生でいろいろ聞いてもら

ったり見てもらったり、学校公演とかももうちょっと、全校やってほしいなと思いますし、せっかく音楽に関しては関フィルさんが来ていただいたんですけど、そういう風にやっていけないのかなというのはあります。何かもうちょっと工夫をすればいけるんじゃないかと思いました。

【清澤先生】

はい、ありがとうございました。わかぎ委員どうでしょうか。

【わかぎ委員】

はい。特に。関西フィルさんのこともそうですけど、関フィル来たからどうなんねんっていうことを、市が考えはるべきやと私は思います。例えば3年間、1回は絶対関フィル聞けるってそれだけやったら、なんていうんやろ。それこそね、音楽別にどうでもええねんっていうスポーツ少年がなんやねんとかなるかもしれんし、そこを繋ぐのを何なんかっていうことを市はやっぱり考えないと。例えば、あのハリウッドボーイっていうあのハリウッドの曲ばかり演奏をしているオーケストラがあるんですね、これ2000年当時ぐらいに日本に来てたんですけど12月31日にうちの全くクラシック聞かない旦那はそれだけは楽しみに行ってたんです。なんでかって言ったら、スターウォーズとかゴッドファーザーとかそういうのをフルオーケストラで演奏するんです。めちゃめちゃおもしろいそれが。それがその音楽に対する興味であったりとか、クラシックのコンサート悪くないやんっていう気持ちであったりとかするわけで、それを関フィルさんにどう提示していくか市の教育として、絶対みんな知っている曲、もう鬼滅とりあえず最後やってくださいでもいいんですけど、何かそういうその関フィルさんからもそういう提示があってもいいと思うし、どこで対応して、どうやって子どもたちに一生オーケストラ聞きに行きへんでもいいけど悪くないでっていう言葉を言える子に育ててあげるのが一番いいんですよ。甲子園球場行ったらおもしろいで。野球ようわからんけどって女の子がおってもいいし、文化って私はそういうもんやと思ってて、直接ほんまに絶対行かなあかんとか直接絶対好きにならなあかんっていうのじゃなくてどうやって影響して、悪くない。割と自分面白かった経験が1回だけある、とかいう言葉を最後に感じるように言えるような子に育てなあかんと思うからそこは関フィルさんといいご縁があんねんやったらどうしたいね。ていうことをもっと考えはったほうがいいと私は思いますけど。

【清澤委員】

ありがとうございます。今年1年の総括ということでいろいろ本年の結果に対してのご意見をいただいていたし、それを踏まえて今後やっていくべき提言が具体的なものとして含まれていたように思います。審議会という立場ですが、記述では文化芸術の推進に関する重要事項を調査、審議するためであるとあります。と言うことは、ただ開催、意見具申するだけではなく各委員が持つておられる知見なりを活かして、それを市民文化部、即ち市の文化施策の推進母体として具体的な策に移していくことであると思います。そういう点で、ただこれ良かった、悪かったではなしに、こうしたらどうですかという、今随分と色々な意見が出たと思うんですが、期間を集中してフェスティバルやってみたらどうかとか、あるいは、創造都市とも関連でもっと盛り上げる必要があるとか、関西フィルとの取り組みについても、あるいは一般市民にとってみると各文化活動の企画みたいなものはどう生まれてどう実施されているのということですね、そういうところを明らかにしていくということですね、原委員なんかもよくご存知だと思いますが、いろんなそういうアートフェスティバルですかね、アート展示による地域振興あるいは活性化というような施策だとか、いろんなアイデアがですね、皆さんお持ちだろうと思うんですね。まずぜひ、その辺を参考にしたいなと。新しい基本計画できました。ここにもその財源の必要性もうたわれています。したがって、市として費用も準備し、責任を持って文化施策を展開していくというふうな形に考えていただくことが大切です。いろんなきっかけを捉えて文化施策を向上させていきたいと思います。関西フィルが来たということもこれも1つの大きなきっかけだと思いますし、数年後には古川橋の駅前開発で、新たな文化拠点が生まれるはずですね。市制、周年行事も多分あるだろうと思います。その時期に新たな集中的な記念行事みたいな文化芸術祭を展開するとか。1年1年ということじゃなしに、ここ5年とか、数年を見据えた中で、この時期にこういうものやってみたらどうかそういうために市としてこう取り組んでみて、あるいはどう市民を巻き込んでいくかということですね。そういうことを含めてちょっと大きな文化施策の展開みたいなことをですね、改めて検討いただけたらありがたいと思うんですそれについて、具体化については、いろいろ持つておられる知見を大いに利用していただいて、それをもって具体化に進めていくというふう

なことですね。今年1年、基本計画はできて、1年目の展開としては、いろいろな芽が出てきたと思いますのでこれをどんどん毎年、1つのポイントを目標にしながら展開していくというふうですね、施策の展開の長期計画みたいなものを策定するよう、委員会としては提言いたします。市民文化部を通して市としてどうかご検討いただいたらというふうに思っています。以上まとめさせていただきます。

【朝倉委員】

直接ではないんですけど、この委員会の。吹奏楽フェスティバルが、今年中学校2校ですよ6校ある中の2校ということでおそらく中学校の現場ではですね、吹奏楽についてとか、多分危機的状況がここに現れたと思うんですね。例えば、部員の獲得がその頃ちょうどコロナ激しかった頃なので、できなかったとか、練習が普段できないとか、それからいろんなところでの本番の経験をしていない、いろんな事情でこれ2校だったと思うんですね。ちょっと今、中学校のそういった部分が危機的状況にあるなど僕は今すごく思っていて、だからということはないんですけど、来年度、市として、何をしたいか、っていうことをイメージをですね、あの、今会長からその文化施策の展開というお言葉がありましたけども、来年度は何をしていきたいかっていう。今度市としての方針ですね、それをこうやってやった結果どうであったかですねそういう話も今度伺いたいなという風に。僕らが勝手に喋ってるだけではなくってこうしましたが、とか何かそういうお話も伺えたらより活発になるのかなあとということ、それからこの基本方針とかも出てるんですけど、市民活動、その諸課題の解決をサポートする、とかがありますよね。だからやっぱりその諸課題は何かということをやったりこっちが探っていないと、みんな問題を抱えて、困難を抱えてそのプロにしるアマチュアにしるやっけると思うので、そういうことも市の方が積極的に触れていくことによって次の展開が見えてくるのかなという気もしています。以上です。

【清澤委員】

どうもありがとうございました。そんなことですので、審議会の開催要領についても一度ご検討いただくということもあると思いますし、少なくとも最終1年終わりに1回ということでもちょっと少ないというような気がします。また今回のように総括ということであれば、事前に資料を配付しと

いていただいて、そのとき少し具体的にそれらに対してのまとまった意見をできるように予めして
いただいていたけると委員さんもありがたいのではないかと思います。それから、今日の話
かなり具体的な内容も結構あると思うんですね。より具体的にどういうプロデュース、どういう形
になっているのかっていうようなこと、それぞれ委員の皆さん方よくご存知のところもあると思
いますので、それはそれで、また資料として、この展開の材料として、より情報収集、それぞれして
いただいたらいいんじゃないかと思うんですけれども、そういうことも含めて、委員のいろんな意
見を活かしていけたらいいなと思います。以上です。

【事務局】

貴重なご意見ありがとうございました。今の状況だけお伝えしたいと思います。最初にリーダー
シップというところで市の考えをどう示していくのかというところですが、指定管理者制度を導入
しまして、市が本来やるべき事業を、指定事業として指定管理者にやってもらっているという事業
があるんですけども、やはり事業は市の方向性を示さないといけないというところで、今回ご意見
いただいて、改めて指定事業をどのように進めていくかというのを、市の方向性を示しながら指定
管理者と共にやっていく必要があるなと実感しました。指定管理者が導入して良いところとして、
いろんな自主事業やってもらっていますので、そこは引き続き発展してできるようにというふうに
思っています。

先ほど中出委員もおっしゃったみたいに、市民が何かやりたいときにどこに行ったら良いか分か
らないとか、市民活動が点在している。わかぎ委員も日常に文化がある中で、散り散りに点になっ
ているところを線をつないだりというところを目指していくべきとのご意見をいただきました。こ
のコンセプトは、文化芸術推進基本計画にもありまして、最終的には市の文化芸術のプラットフォ
ームの作りを検討していますので、パイロットプロジェクトが大きくなって市のプラットフォーム、
文化芸術のプラットフォームという形になれば、市民が何か文化芸術活動したいというとき
に、今はパイロットプロジェクトですけど、その委員のところにいけば、何かできる、自分がやり
たいことが現実に叶うという仕組み作りをしたいと市としてはそういうふうに思っています。最終
形態としてはプラットフォーム作り、それを支援をしていくというのが今の市の役割だと思ってい

ますので、全力で計画推進していきたいと思っています。

あと、関西フィルの部分に関しては予算の部分はおっしゃっていただいている通りです。ふるさと納税とか、先ほど説明もありましたけど、ふるさと納税を活用して予算をうまく獲得できないか検討してます。門真市に拠点を移してようやく1年経ったところで活動が見え始めて、市としてもっとアピールしたほうが良いということでしたので、関西フィルとともにどんどんアピールして資金集めるとか、ふるさと納税の仕組みづくりをして資金を集めて、文化芸術の方にも予算を獲得できるようにというふうには工夫してやっていきたいなと思ってます。今日いただいたご意見は本当に貴重であったと思いますので、それを踏まえて、文化芸術について、市として改めてもう一度見直してやっていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

【清澤委員】

事務局をお願いします。

【事務局】

委員の中からでも、審議会の予定がちょっと少ないんじゃないかということがありましたが、今のところは毎年2月から3月に年1回というふうに考えております。ただそれまでにこういうことをしたほうが良いというのがありましたらまたご意見いただきたいなと思ってますので、事務局の生涯学習課のほうまでご意見、お電話、メールでも結構ですのでいただきたいと思います。

【清澤会長】

ありがとうございました。

それでは、今年度、令和3年度としての門真市文化芸術推進審議会をこれにて閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。